

2006 年度

科目名 基礎ゼミナール I B	対象学科・学年 人間人社 1 回生	担当者 井上 徹
授業テーマ 大学生として必要な、読む、書く、考える力をつける		
授業の概要と目標 情報を探索し、まとめ、発表することは、大学において身に付けなければならない基本的な技能の一つです。 本を読み、書かれたものをまとめ、発表し、人に伝える技能の習熟をめざします。		
評価方法 出席状況 + ゼミでの発表 + レポートの内容 (40%) (30%) (30%) ゼミを欠席するなどもつてのほかです。		
テキスト ① 羞恥心はどこへ消えた？ ② 脳の中の人生	著者 菅原健介 茂木健一郎	出版社 光文社 中央公論新社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 各自がゼミや課外で行う事柄は次の通りです。 1. 文献を読み、関連する情報を探す。 2. ジュメ（発表のための要約）を作る。 3. ゼミの時間に発表する（1 人、10 分間） 4. 質問を受け、それに答える。 （注意）予定された発表ができない場合は、ゼミを欠席したのと同じ扱いにします。 スケジュール 1. 基礎ゼミ（後期）へのオリエンテーション パソコンの使い方、PowerPoint の作り方 2. 「羞恥心はどこへ消えた？」についての発表（1） レジュメを用いて、1 人 10 分間で発表する。 3. 「羞恥心はどこへ消えた？」についての発表（2） 々 4. 「羞恥心はどこへ消えた？」についてのまとめ KJ 法を利用して、得られたことをまとめる。 5. 「脳の中の人生」についての発表（1） レジュメを用いて、1 人 10 分間で発表する 6. 「脳の中の人生」についての発表（2） 々 7. 「脳の中の人生」についてのまとめ KJ 法を利用して、得られたことをまとめる。 テキストについて ①は、社会心理学者が見た「羞恥心」と現代日本における「恥の文化」。地べたに座り込むのは恥ではない？ ②は、脳科学者が語る、脳と人生の結びつき。“合脳的な” 人生術がいろいろあげられています。 授業は、隔週で行なわれます。		